

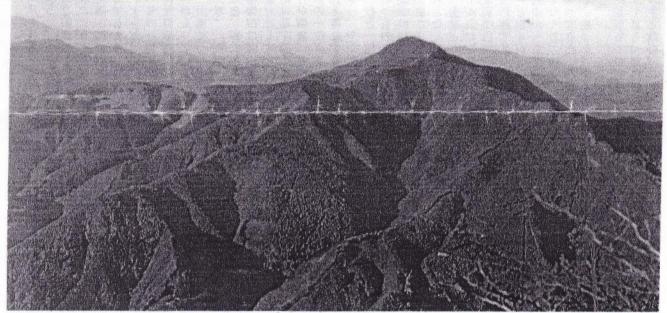
な板場があり、

る。

間に西さんは佐藤さんの車で上部の偵察に向かう。

周囲にテントを張る余裕が十分にある。さっそく設営にか





烏帽 子岳 よ 望む天包山 (宮崎県) n

中国

1

九月月例

山 行

報告

藤

水嶺を登る

である。眼下に国道を見てホッとする。寂地峡と呼ばれる程の深山幽谷のな狭く曲折する道を一気に下る。対向車があれば離合に苦労する様な急坂本番の寂地山登山口に移動するため国道に向かう。五家荘で体験した様 かなのが多い。九州ではあまり見かけないが、石州瓦の産地独特のもので、特産のミカンの色を表しているらしい。山口市郊外の屋根瓦が赤くつやや に立ったが、林に囲まれている上、一面のガスに包まれて眺望は全くない。林が延々と続く。小さなピークが次々と現れ、やがて一、一六二mの山頂林の降り出してもおかしくない空模様のため、雨具を着けて入山。雑木 陶器と同じように釉薬(うわぐすり)をかけたものと言うことである。 が空模様が怪しい。今にも降り出しそうな雲行きである。関門橋を渡り い状況だ。とにかく行けるところまで上 は小五郎山である。寒村の狭い道を辿り、ようやく登山口に到着。 国道へとひた走りに走る。山口県のガー 安藤の七名で山口県に向かって北上する。中津付近でようやく明るくなる 観光港で飯田、 「万歳」「ヤッホー」 あった!犬戻し遊歩道の入り口に立派な東屋の休憩所が、中央に大き、状況だ。とにかく行けるところまで上がってみることにして林道を上がキャンプ場に入ると若者のグループが詰めかけており、場所とりが難し 帯である。 高速道は島根県に入り、山間部を通り六日市で一般道へ。一日目の目 いつ降り出してもおかしくない空模様のため、 遠江両名が加わり、 朝五 を三唱して早々に下山する。 車二台でサニー 山口市郊外の屋根瓦が赤くつやや-ドレールの黄色いのが目立つ。県 西 (あ)、 スポーツ店前出発。 小竹、 佐藤 (修)、 途中別

標

もくじ >

\$ \$ - 7 \$ \$ 49 9 9	
中国山地、寂地山	1
三方岳	2
剣山	3
雪降山、天包山	4
懐かしい大菩薩…八甲田山	5
白峰三山山行記録①	5
四姑娘山トレッキング①	6
私の40周年記念山行	
夏でも寒い…御嶽山	7
名山をたずねて	8
私の無名山ガイドブック⑦	8
お知らせ	9
後記	9

府

中

タ閣迫るころ一同揃ってビータ閣迫るころ一同揃ってビールで乾杯。持参の料理で賑やかって、山頂で飲むはずのビールった。あずさが携帯電話で「明日決。酒の勢いは怖いもの知らずだ。あずさが携帯電話で「明日だ。あずさが携帯電話で「明日かでニルを買ってきて下さい。」のビールを買ってきて下さい。」をかったア::、何とも言えぬ複粋ったア::、何とも言えぬ複粋な歓声である。

九月九日(日)六時、好天の九月九日(日)六時、好天の別着まで二時間ほどあるので野山開始。山口、広島グループを山開始。山口、広島グループが、 お世話になった休憩 朝を迎え、お世話になった休憩

ほど寒くもない。時折り囀る鳥なく静かで気分爽快だ。思った木洩れ日がさす林の中は風も(寂地山頂で)

(孝)、佐藤さんは額々山へ、 (孝)、佐藤さんは額々山へ、 健脚組は冠山まで行ってくると 健助組は冠山まで行ってくると 明の一位ガ岳でお会いした顔ぶ 県の一位ガ岳でお会いした顔ぶ れと再会する。若い男女の声が れと再会する。若い男女の声が れと再会する。中半山り でもの笑顔が懐かしい。早速 を登が始まる。中津出身の ときが始まる。中津出身の はいつもの笑顔が懐かしい。早速 を登が始まる。中津出身の はいつもの笑顔が懐かしい。早速

れとなく気配りしている。 一ル (ロング) が六本出てくる。 電話で注文のビールだと言われ で恐縮する。西さんが申し訳な いと謝るが、電話をした本人は がと対るが、電話をした本人は がなくして四人が息せき切って どなくして四人が息せき切って どなくして四人が息せき切って と。 を。走った、走った、走った!

ゴクと飲む。「美味しい!」昨ルを息もつかぬ勢いでゴクゴクゴク

かになる。

藤、遠江、西(孝)、 光景に出会い、運転も慎重にな ととなればいい気味と言わんば がパトカーに止められている。 間もなく先ほどの宮崎ナンバー 追いつくだろうかと話している トカーの追跡が始まる。どこで の白い車がすごいスピードでぶ く。鹿野町付近で宮崎ナンバー て冠山へ出発し、大分組は往路 口のグループは西(孝)を加え る重廣さんを中心に、広島、山 食事の後、二日間の山行を無事 っ飛ばして行った。と見るやパ ・ら」で疲れを癒し、帰途に を下山し六日市の温泉「ゆ・ら 参加者=飯田、安藤、 終えることができた。 る。下関サービスエリアで休憩 かりである。めったに見られぬ 「早かったなあ」などと他人ご しばらく談笑のあと、縦走す 西 (あ) 小竹、佐

方岳

尾根づたいに登ればいい。

(七月月例登山報告)

佐藤秀二

はもう一つ三方山という山があ葉ダムの南側にある。椎葉村に三方岳は、宮崎県椎葉村の椎

を経由し、東郷町の道の駅で待 生活力と勘違いしていた。 一に集合。参加者は九名。内二 十八日午後六時にサニーに集合。参加者は九名。内二 名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。渋滞で、名は現地で合流する。 で態本から西郷町の道の駅で待ち合わせ。ここから西郷村を抜け、登山口へ。登山口には午後け、登山口へ。登山口には午後け、登山口へ。登山口には午後が、一般で表した。

ある。 児玉さんが待っていた。 と入れ間違えたらしい。早朝の 本人の服の袖に入っていたので ないとのこと。大騒動して探し る前にはずした入れ歯の片方が れ歯がない」と騒いでいる。寝 様子がおかしい。西さんが「入 を始め、軽く食事をとる。何か いる人もいる。すぐに出発準備 起きる。外ではすでに、起きて 発だ。一眠りし、三時三十分に 設営し就寝。明日は、四時の出 の看板がある。早々にテントを ていると、見つかった。なんと、 「入れ歯事件」だった。 登山口には、九州大学演習林 暗がりの中で、ポケット

いくのだが、周りとほぼ同色でい。小石の坂をトラバースして見えないと言う。そこで先頭をたのかと思ったら、暗くてよくたのかと思ったら、暗くてよくたのかと思ったら、暗くてよくがってみると確かにわかりにく

る。尾根ははっきりしており、 休憩後、すぐに尾根に登り上が 尾根に入り込んでいるようだ。 みると、すでに西北西に延びる があるが、地図と付け合わせて ると、それぞれの尾根に登山道 びている。 線の少ない広い場所へ向けて延 その尾根は円を描くように等高 二本の尾根が出ている。そして の山は山頂から西北西と北西に て休憩。地図で確認すると、こ ここで川を渡って、しばらくし 坂の穏やかな広いところに出る。 をしているようだ。やがて道は、 の雰囲気が漂う。まさに森林浴 りとした清涼感、静寂とした森 が明らかになっていく。しっと と空はしらみ始め、周りの景色 標が所々にある。四十分も歩く 状態で歩きやすい。山頂への道 道は、登山口からほぼ横ばい 「宮崎百山」によ

返したところが頂上だ。 たが見えなかっただけであった。 が懸かっていたせいもあって、 に山が見える」と声がする。雲



寺二十五分こ山頂で)

は思えない涼しさ。 七時二十五分に山頂に到着。 一角点はないけど、いつものバンザイとヤッホーをする。気温 が出り度。下界の三十数度とは 大違い。頂上まで森が続きひん でりとしている。七月の登山と でりとしている。

尾根ははっきりしており、さったが、時間の都合で今回は断の分見通しはいいのだが、直射の分見通しはいいのだが、直射の分見通しはいいのだが、直射の分見通しはいいのだが、直射の分見通しはいいのだがありまでします。

四十分ほど下ると、尾根は次ので道に迷うことはない。がら下る。テープも巻いているき登ってきた尾根を左手に見な

四十分ほど下ると、尾根は次のは、朝来た道を戻る。

道は軽い上下を繰り返しなが、らの登り。坂自体は緩いのだが、らの登り。坂自体は緩いのだが、らの登り。坂自体は緩いのだが、らの登り。坂自体は緩いのだが、登山口には十時丁度に到着した。ほど楽しみながら、登山口へ。まうな気がする。秋に来るまで森が出来た。こんな山も珍しいけど、本来これが当たり前のいけど、本来これが当たり前のはなが表晴らしいのではないかと

姫野、西、渡辺玉、佐藤(斉)、佐藤(正)、参加者=飯田、小野、小竹、児

休み山行報告

玉

良

高岳 (三等) 、大矢岳、大矢野等) 、三方岳、根子岳 (二等) 、「尾ノ岳 (一等) 、斧岳 (四

(一等)」 二郎笈、一ノ森(二等)、眉山岳、高千穂野、剣山(一等)、

暑い中、一日一〇時間も歩いた。 輪山(根子岳、高岳、大矢岳、 ら始まった。二九日には月例山 例山行報告。 ことになった。そこで八月の月 急遽、八月月例山行に参加する 一号の襲来でオジャンになった。 リーまで予約したのに、台風十 日間、佐藤先生と北海道に行っ 本当に疲れた。二〇日から一〇 日までの五泊六日の大会で「外 インターハイで、五日から一〇 行で「三方岳」に。八月は熊本 本県境の「尾ノ岳」「斧岳」か て、登れるだけ登る予定でフェ 大矢野岳、高千穂野)」をあの 今年の夏休みは七月二四日能

剣山

(八月月例山行報告)

> 途中よく見えていた「三嶺」 兄弟山と呼ばれているそうだ。 山頂着。三角点はない。剣山と ひいていた。約一時間ぐらいで げに咲くトリカブトだけが目を 季節は終わっていた。ただ怪し 高山植物が豊富にあったが花の 郎笈 (一九二九m)」へ。途中 に「お塔石」の下を通って「次 本名水百選の「御神水」、さら 往復一、八〇〇円。右回りで日 で「茶屋西島」まで、約十五分。 をして「見の越駅」からリフト 駐車場に車を止めて昼食。準備 間後、剣山登山口に到着。立体 に出会う。かずら橋を出て二時 で「三嶺」に向かう西さん一行 かずら橋」を見学。さらに途中 ら橋」を見学し、四三九号線で たような。五時頃起きて「かず 弁当を食べて就寝。二時頃だつ トを張り、小竹さんの美味しい 着。少し上がったところでテン 渓道路」経由で「かずら橋」到 を下り「小歩危(こぼけ)」 に加わり「池田」から三二号線 ていたので、小竹さんもこちら 明日は昼から雨になる予報もで 「剣山」へ。途中「奥祖谷二重 「白髪山」もガスで見えなくな 「大歩危(おおぼけ)」「祖谷

に「塔の丸」「丸笹山」などがれていた。山頂からは、目の前角点は登山者の積んだ石で埋も角点は登山者の積んだ石で埋も。三山(一九五五m)」へ到着。三次ぎにメインの「剣山」へ。

ちマツカ」に泊まる。築一年 到着。ここから見ると「剣山」 らずの新しいホテルだった。次 にあるビジネスホテル「わきま グループとは別れ、隣町の脇 理を食べる。ここで木本さんの 山木綿麻温泉」につかり貞光町 さんたちと合流し、帰途につく。 うど「剣山」から下りてきた西 見て、再び駐車場に戻る。ちょ 参りし、ここで宮尾登美子作 少しだけ咲き残りがあった。 残念だが時期は過ぎていたが、 り場」へ。キレンゲショウマは 間三〇分で「茶屋西島リフト乗 ョウマ群生地」を通って約一時 いので、「行場」「キレンゲシ 立ち寄り、来た道は戻りたくな 下にある「一ノ森ヒュッテ」に 七〇八m)」も見えた。山頂直 る。ガスっていた「石立山(一 を通って約四〇分後「一ノ森 覗かせていた。軽く昼食をとり 嶺」もややガスがとれ再び顔を 手に取るように見える。「三 へ向かう。吉野川沿いの貞光町 い、近くにある「剣神社」にお ンターで土産(祖谷そば)を買 「次郎笈」が双子のように見え 「一ノ森」へ。途中「二ノ森」 (一八七九m)」二等三角点に 「道の駅ゆうゆう館」でワニ料 【天涯の花】のモニュメントを 日、あいにくの雨だったので 四三八号線の途中新しい「剣 降りてリフト乗り場の観光セ

徳島観光に行こうということに

ことで、それまで時間つぶしに 島駅近くの「阿波踊り会館」に なった。まずは名物の「うど ものであった。会館で「うど た。みんなの喜びようは大変な たことに「一等三角点」があっ 行くと、一〇時ごろからなら 店はいっぱいあったが朝早すぎ ん」屋を探しながら中心地へ。 ここで最後の土産を買い込んだ。 ても車で山頂まで行ける。驚い 登ることになった。登るといっ てどこも開いていなかった。徳 ん」を食べたがまずいのなんの。 「眉山(びざん)二七七m」に 「うどん」が食べられるという 「和三盆糖」や「徳島ラーメ



州百名山の「風師山」に登った。

ル」をたらふく浴びついでに九

次ぎに帰路の途中の藍住町で 藍製品を買い、もう一度美味し い「うどん」を食べにいった。 「藍の館」を見学し、それぞれ (三嶺より剣山を望む)

見えた「丸笹山」「塔ノ丸」 今回が一番充実していた。もう だったが、「鰹のたたき」など 楽しい夏休みであった。 月曜日に熊本の「俵山」に登り 物足りなかったので、次の日、 帰県。大分で佐藤、小竹両氏と 三崎一六時四〇分発フェリーで 中「石鎚SA」で休憩をとり、 ら「徳島自動車道」に乗り、途 も食べ、旨かった。徳島ICか これで夏休みの山行は終わり。 には疲れたが、山登りには少し レトロに遊びに行き、「地ビー 一度行って「剣山」から眼下に 火曜日に「冠ケ岳」に登り、 「与作」という「うどん」店で 「赤帽子山」に登りたい。運転 「沖縄名物ドーナツ」を買い、 「高森田楽」「月廻り温泉」。 「ラクダ山地鶏炭焼き」、再び 「寿し八」で夕食を食べて帰宅。 忘れていたが二十二日「門司 徳島へは三回目であったが、

さらに一時間以上。稜線らしき

(十月月例登山報告)

秀二

しい。 物足りないと、近くにある山で とが山名の由来となっているら 雪が積もる山、オサレ山は地元 雪降山は、この一帯体で最初に は数カ所しかないカタカナの山。 で雪降という珍しさと、九州で 山に登ることにした。南国宮崎 名前の珍しい、雪降山とオサレ で「恐れ多い」山と言われたこ まで車で行ける。それだけでは

折れて、県道三十九号線を銀鏡 識がある。 と林道左手に雪降山登山口の標 装の林道となる。三分ほど行く 目指し、一ノ瀬ダムの道を右に 百十九号線を西米良村の村所を 市を目指す。西都市から国道二 にサニーに集合し、宮崎県西都 登内川沿いに進むとやがて未舗 へ。銀鏡地区から三叉路を右に 集合時間も珍しく、午前七時

がある。 百九十メートルなので、その差、 約六百メートル。結構、標高差 約三百七十m。山頂の標高が九 は止められる。登山口の標高は 車はすぐ先の道端に三、四台

竹、児玉、佐藤(秀)、佐藤

参加者=安藤 (セ)、石川、小

一等三角点である。

もわかりやすく、テープも巻い に沿って登る。道は思ったより 山口(十一時三十分発)から谷 る。やや心配ではあったが、登 備されていない急登と書いてあ 「宮崎百山」には登山道が整

ればならない。登り続けること ゆっくりしかし確実に登らなけ ープを探しながらの登りとなる。 を登ると今度は急坂の連続。テ たところではあるが、足下の木 には乗り越えながら進む。坂は 代わり、倒木を避けながら、時 自然林だった道も植林の中へと の枝が邪魔で登りにくい。ここ といきなり岩登り。ちょっとし 一向に緩くならず、急登の連続 一時間ほどで尾根道に出る。 五分も歩く

来ないかもしれないと思いつつ もの捨てゼリフ。本当に二度と のバンザイとヤッホーをして、 茂っていて眺望も悪い。いつも 分。雪降山の頂上に着いた。 ところに出る。ここを左に約五 「二度と来ない」とこれもいつ (午後二時) 頂上は狭く、木が

に着いた。 (午後四時) らなかった。やはり油断は禁物 転落してしまったが大事には至 の行軍となる。途中、油断して だ。下ること約二時間、登山口 ここから、天包山へと移動す 下りも、テープを探しながら

スキの茂る狭い林道を草をかき は八合目まで。八合目からはス を経由して山上へと向かった。 国道二百六十五号線から井戸内 西米良村の村所で買い物をして 九合目まで道はあるが、舗装路 る。国道二百十九号線に戻り、 分けながら進む。一度急カーブ

目の広場で終点となる。 ぐに広場に出る。ここが、 をした後、道が下り始めるとす

も忘れ楽しいひとときを過ごし 思いの外消耗した雪降山の疲れ そ三十分で頂上に着く。 なので、ゆっくり登った。およ 山道は頂上まで整備され、階段 五時に起き、山頂へ向かう。登 た。明朝は、山頂で日の出を見 満天の星空を見ながらの舌鼓。 が付けられている。坂は結構急 ようと早めに床についた。翌朝 夕食は小竹さん持参のハモ鍋 頂上には、中継の電波塔と、

を詰めたところから登るといっ た地元の人が、オサレ山は林道 今度はオサレ山を目指す。 済ませて午前七時三十分に出発。 下山。下りは約二十分。朝食を 日の出を迎え、写真撮影をして、 なかなかの景色である。ここで 百六十度見渡すことが出来る。 展望櫓がある。櫓からはほぼ三 昨日雪降り山の登山口で会っ

てしまい先に進めなくなった。 がふさがれているところまで来 しくなる。とうとう崖崩れで道 れ高度は稼ぐものの道は狭く険 道を進んだ。しかし、進むにつ 口を目指し、そこからさらに林 ていたので、再び雪降山の登山 道は狭く軽自動車しか通れない ろが道路地図に道はあるものの なり、赤髭山を目指した。とこ 近い山ですまそうと言うことに ここで先に進むことを断念し、 道路を進むのに悪戦苦

藤(秀)、佐藤(正)、西東をぶつけてしまったりで、こ車をぶつけてしまったりで、これまた先に進むことを断念。時間もすでに十時三十分。この日の登山をあきらめて大分に帰ることとなった。オサレ山は宿題として残ってしまったが、またとして残ってしまったが、またとして残ってしまったが、また登りに行きたいと思う。

峠、八甲田山へ像かしいあの大菩薩

安部可人

この六月、ある夜、東京から 突然FAXあり、大酒飲みの弟 を生上京。小平市の別の弟の家 きょ上京。小平市の別の弟の家 にて滞在。しかしする事なし。 に向かう中高年達や旧道を楽し に向かう中高年達や旧道を楽し に向かう中高と左へお寺あり。大菩 が集中治療室で重体との事。急 をよ上京。小平市の別の弟の家 にて滞在。しかしする事なし。 に一から中高年達や旧道を楽し かりループと会う。柳沢峠を十 むグループと会う。柳沢峠を十 むグループと会う。柳沢峠を十 むグループと会う。柳沢峠を十 なが、東京から を はいしいなあ。若主人に話しか けるともっと奥まで車が入れま けるともっと奥まで車が入れま けるともっと奥まで車が入れま

か?あの時は。下から歩いて旧私二十二歳、歓迎登山だった

けていたころ、弟は夢を見てい 私がかの机竜之介の峠で願をか て断念)。弟は奇跡的に退院。 事到着。(民宿に泊まって金峰 中央高速を府中まで弟の家に無 くと雨。塩山では大雨となり、 り、雷の音で引き返す。車につ 米の大標識までさらに三十分登 あの時と同じ、今日も霧。二千 小径の記憶など全くなし。峠は 中高年の団体さんの話。) ったのだ。(二時間かかったと 小屋を通過して、大菩薩嶺に登 たという。(私が飲み屋の主 峠までゆるやかな登り四十分 山再訪は地図もなく

り興奮して眠ったあの野営場。 かったのだ。期待通り、宿の若 山。大会後にまず雑誌で調べて 責任者)と八幡平、岩手山に登 歳(昭和四十一年)、全国総体 と参加。八甲田山は私が二十九 入瀬ウオーク三日間を見て家内 りだったが、車がいっぱいで風 懐かしかった。(温泉場は昔通 その古い看板が車窓から見えて いお手伝いさんが器用に前を隠 いた混浴の古い酸ケ湯温泉に向 で金丸寿雄氏(前年大分大会の 格安の白神山地と八甲田山、奥 んだものだ。若かったからかな して湯につかる姿をみんなで拝 この年九月の終わり、新聞で

に着いたのだ。タッパーに入れ感じで、真夏の八甲田山の頂上当地から由布山に登るような

それは憶えている。
ートの標識があったのが印象的
ートの標識があったのが印象的
たみそ汁が昼食の副食。下山は

かろう。昔を懐かしむようでは は憶えていない。ロープウエー しい。)酸ケ湯から登るルート をながめるような感じです。 中山あたたりを歩いて九重連山 湿原にはもう花はなかった。立 田茂萢岳ウオークを楽しんだ。 八甲田の三山をバックに六十分、 いる。十分で山頂駅着。家内と 田山のロープウエーが開通して もう老人。だめですなあ。 を使って三山を縦走するのがよ 次には岩木山もやってみたい。 行けなかったが、機会があれば 残念ながら八甲田山の頂上には (八幡平には今は車で行けるら 私たちの登った二年後に八甲

下から) → 森空港→ (バス:六〇分) → 山頂駅→ (六〇分) → 市居山) (四五分) → 大岳 (八甲田山) → (六〇分) → 酸ケ湯温泉 (ロープエーでもらったリーフレットから)

(注) 机竜之介は中里介山の名(注) 机竜之介は中里介山の名

山行記録(そのこ)

独行である。
年間一回だけ取れる一週間の年間一回だけ取れる一週間の

1:25)~広河原(3:20) 新宿(11:06/11:30)~甲府(1:10/ 大分空港(8:30)~羽田(10:00)~ 七月二九日(日)

そのはず、乗客は僕を含めて二 買いたいものが」というと、な困ったなと思って、「ちょっと 府で買いたいものもあったので バスがあった。嬉しかったが甲 と、なんと直ぐ出ると言う臨時 かないなと思いながら駅に着く 五〇分甲府駅で時間をつぶすし きは一時の次は二時しかない。 じ一〇五号に乗った。広河原行 た。仕方なく一一:三〇発のかい 当急いだが、やはり無理であっ 時のあずさ五七号に乗るよう相 丈夫なんだろうか、しかも車掌 んと五分待ってくれた。それも 人だった。こんなに少なくて大 バスに乗るため、新宿発一一 甲府から午後一時の広河原行

に出るというわけだ。
をがこれが全く無用の心配であることがすぐわかった。つまりになのだ。帰りの客ががってくる登山客を乗せる回送帰ってくる登山客を乗せる回送がすぐわかった。つまりまで乗っている、と心配になっまで乗っている、と心配になっまで乗っている、と心配になっまで乗っている、と心配になっまで乗っている、と心配になっ

八重

康夫

田府から広河原までの車道は 要く狭い。車掌が乗っている理 は登山客であふれ、広河原方面 は登山客であふれ、広河原方面 がら帰りのバス三台(みな満 から帰りのバス三台(みな満 を連絡し合いながら先へ進んで を連絡し合いながらたへ進んで を連絡し合いながらたへ進んで

ろが沢などよく確認できて楽し 線だから、入り口で車が来てい ス停から数分も歩くと野呂川を すれ違った。大樺沢についてバ 家用車やタクシーとも数知れず すれ違うバスはどれも満杯。自 ので、乗客は自分一人。しかし かった。夜叉神峠で一人降りた バスでも自分の走っているとこ アマップ地図はよく出来ている。 わずトンネルを抜ける。 に出口に車が待っているがかま 対向車を数台待つ。離合後は既 し!」と中央まで進み、ここで ないことを確認して、「よ 所は中央に二箇所しかない。直 で、普通車でも内部での離合箇 それにしても、昭文社のエリ 一番すごいと思ったのは全長 ○○○mの夜叉神トンネル

着いた。 と今日の宿泊する広河原山荘に渡るつり橋があり、ここを渡る

九時には寝てしまった。 まわりにテントを張っている 大いて、 河原を散んでった。食前酒として赤ワインがった。食前酒として赤ワインがった。食前酒として赤ワインがった。食がでいて、 河原を散策している人もいた。 のどかな風まわりにテントを張っているまわりにテントを張っている

七月三〇日(月)

元河原山荘(4:55, 1530m)~大棒 沢への分岐(5:23, 1655m)~白根 別への分岐(5:23, 1655m)~白根 り~右俣コースとの合流点(8:56, り~右俣コースとの合流点(8:56, 10 2720m)~小太郎尾根(9:12, 2810 11 総歩数:11999歩

らに行ったほうが花がきれいか も結構重く感じられ、足も重か 樺沢へは行かず、白根御池小屋 山荘の人に聞いた時、「どちら ドを押さえた。しかし、ザック 相当良かったらしい。直登とい と、すげない返事だったので大 の景色のお花畑も一緒ですよ」 に出来るだけ飛ばさずにスピー 登部と比べてもむしろゆるいよ っても、祖母・傾・大崩等の直 で聞くと大樺沢のほうが景色も への直登を選んだ。ほとんどの った。大樺沢への分岐で、どち 人は大樺沢へいったようだ。後 歩き始めは、いつものよう

白艮即也小品

展望が開けた。

・小屋や売店が無かったら、と
を、小太郎尾根に出るとグンと
を、小太郎尾根に出るとグンと
を、小太郎尾根に出るとがいると自

だったように思う。 カメで撮っておいた。また、肩 う」と言ったので、自分もデジ はチョウノスケソウです。これ 他の登山者が「いやいや、これ ウに似た花を見つけたので「あ もうこの時期にはあるはずがな キタダケソウを見たかったが、 天気の良いうちに北岳に登った。 行きでは、ここの花が一番見事 くさんの花があった。今回の山 は、お花畑とも言えるくらいた も珍しいから写真に収めましょ い。北岳への途中、キタダケソ 屋に着いた。まだ早かったので ノ小屋から下の水場までの間に 程なく今日の目的地、肩ノ小 キタダケソウ?」と言うと、

本語から降りてきて、まだ早かったが広河原山荘でもらったかったが広河原山荘でもらったかったがにまみれてしまった。として泥にまみれてしまった。として泥にまみれてしまった。として泥にまみれてしまった。と地がし、拾ってごみとして持けないし、拾ってごみとして持いないし、結局小屋に洗い水ると嫌だし、結局小屋に洗い水ると嫌だし、結局小屋に洗い水ると嫌だし、結局小屋に洗い水ると嫌だし、結局小屋に洗い水で出ていたので、そこで肉や梅井や漬物などについた泥を出来るだけ落して、全部食べてしまった。あとで腹痛を起こすこと

定員一五〇名に対し二〇〇名以上泊まっていたので、部屋は以上泊まっていたので、部屋はいまなく、寝床を作って隣の人ともなく、寝床を作って隣の人と花図鑑を見てしゃべっていたら、少し小さな声が続いていた。ち、少し小さな声が続いていた。ち、少し小さな声が続いていた。ち、少し小さな声が続いていた。ち、少し小さな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。ちっと大きな声が続いていた。



登頂(そのI)

女藤セツ

福岡空港一四番カウンタ天気晴れ

福岡空港一四番カウンター 「今暫くお待ち下さい」 「今暫くお待ち下さい」 生風の影響で香港〜成都間の確 実に飛ぶか確認がとれぬのでチェックイン出来ないというのだ。 国際線専用は人も少なく淋しく 国際線専用は人も少なく淋しく 本セイパシフィック航空で台北 をも香港へ行かれるお客様間も なく受付を終わりますのでお急 ぎ下さい。」

らっしゃいませ。」一番の奥のんでした。お気をつけて行って「お待たせして申し訳ありませ渡し走るように出国口へ。でいたるように出国口へ。のいたします。」馴れた手つきでトたします。」

が出発なさいました、ご案内い

十一時一○分ゲート入り。三さんの一人旅なんだから・・・。 である。それならそれでお急ぎである。それならそれでお急ぎをい等言ってくれるな、小母機は準備中でございます。今暫機は準備中でございます。今暫

本の一人旅なんだから・・・。さんの一人旅なんだから・・・。 十一時一○分ゲート入り。三階から地上までテクテク降りて 変天下ゾロゾロ歩き、タラップ 変大下ゾロゾロ歩き、タラップ を昇る。一時間遅れでやっと飛び立った。「ヤレやれ!」消臭 び立った。「ヤレやれ!」消臭 スプレーを持った乗務員(男 性)トイレ周辺にやたらと吹き つけていた。隣は空席、ひと息 ついたら食事が運ばれた。ウエ ットティッシュを所望。姑娘は 額いた。持ってきたのはティッ シュをぬらした塊りであった。 「ギョッ〃」まあいいか「謝

時差六〇分で戻す。台北には 掃が始まるが座席で待つ。やが 同じ席で搭乗券を見せると立ち 同じ席で搭乗券を見せると立ち 母さんのところにも同NO睨み合 いー。「私等福岡から乗っとん のにナンデエー変わらんといけ のにナンデエー変わらんといけ ののー、動カヘンデー。」

流れの先はE1である。 (T2は たしつかりしてー。満席状態で たしつかりしてー。満席状態で をっと飛び立った。二時二〇分。 三時又食事が出た。ナニゴハ シ?三時四〇分香港空港着陸。 エラブル発生続き、子供は泣

見せ、前もって渡されていた リーダーに会うことが出来た。 案内してくれた先で運良く西川 間違い)轉機處でパスポートを 皆と合流、成都への長い一日で 「しおり」を見せて係りの人が

機内食サラダの小さき 夏の海染めて地球の丸さかな

雲の峰分けて香港空港へ トマトかな

二日目(七月九日(月)

り抜けていくので怖い。建設中 くない。輪タク、普通車、信号 ぱいの自転車は二人乗りも珍し 風に変わる。 のアパートが目立つ。五〇分走 は少ないので我専用車の横をす って高速路に入ると景色が田園 成都の街は埃っぽい。道いっ

房のきいた車に駆け込んだ。 さを垣間見る。暑いあつい!冷 を竹で編んであり中国人の器用 川風に吹かれ橋を渡るが、飾綱 段を下る。湿度が高く暑苦しい。 っている。説明をき、ながら石 上部建物から見下ろす岷江は靄 作られたという潅漑ダムを見学 秦の時代 (一三〇〇年前)

> りが来る。続いてブドウ売り、 村市場の中にありさっそく桃売加油站保=ガソリンスタンド ているのかと心配になった。 たキャベツ、下の方はどうなっ が広がる。トラックに満載され 走る。収穫を終えたキャベツ畑 農村風景の中、 かった。 味しかったそうだ。 それで洗ったのだ。ブドウは美 け、逆にすれば水が出る仕組み。 どもその前に見てしまった。一 そして「味を見て」と出すけれ 五以のペットボトルに水を入れ (少々濁っている) 蓋に穴をあ 未舗装の道路を

TV番組世界不思議発見に出 パンダ研究センターへ(帰国後

よい

の

ウーンと考えた。一〇〇元でパ 張りでないパンダ舎、目前で動 パンダだー。」パンダが木登り パンダが登っている。「アッ、 自然林のかなり高い本に一頭の 抱きます。」パンダのお出まし。 出しているものは黄色い塊、フ 可愛い、。笹を食べているのに き回るパンダは可愛い、=実に 上手って初めて知った。ガラス 後姿の彼は重い毛玉だが、久々 乗せ、交替でカメラにポーズ。 皆「可愛い、」膝にポイと彼を に我が胸はトキメイタのであり ンダを抱けると言う。「ハーイ

語で竹を食べる者の意 木洩れ日やときめきて 大熊猫=パンダ

々。以降も日本のようにビール 入りのビール初めて飲んだと面 出来るMさんに通訳を頼む。氷 ていない。「氷、氷」中国語の

昼食時注文したビールが冷え

とは冷えているものとは限らな

木洩れ日や大熊猫 ズッシリひざにあり 大熊猫抱きにけり (以下次号)



私 Þ 四 記 でも寒 61 ょ

高 康 利

かし涼しく日数のかからない場しい中、余りハードでなく、し 行った。大分から名古屋までは 飛騨高山の観光も兼ねて御岳へ った。 滝コース登山口の田の原に降り 乗り継ぎ標高二, 一八〇mの王 夜行バスぶんご号で、名古屋か 所へということで、妻と二人で 立ったのは、二十二日正午であ らJRで木曽福島、更にバスに 昨年八月下旬、 未だ残暑の厳

る所に信仰の山らしく霊神碑や り山頂へ向かう。沿道にはいた 祠が多い。王滝山頂小屋が登山 を潜り広い参道のような道を辿 早速支度を整えて大きな鳥居

が美しく煌めいており、

明日は

渡ると深い渓谷の中に仙人滝が 林に変わり仙人橋という吊橋を

レの窓越から見えたオリオン座

御岳高原方面の展望が良く吹く れでも登り途中で振り返えれば に感じるが中々近づかない。そ 口から眺められるので近いよう

が良く見える。 目と鼻の先で、御岳神社の建物 そこから最高峰の剣ケ峰はすぐ 王滝山頂へは午後二時前到着。 小屋を経て王滝頂上神社のある 八合目小屋、一口水、九合目

景はよくわかる。 池小屋、岩峰の魔利支天、継子 コバルトブルーの水をたたえた ルプスなどの山々は見えない。 見えるはずの北アルプスや南ア 望だが、今日は生憎ガスのため、 山頂。三六〇度申し分のない展 れば大きな避雷針のある剣ケ峰 岳、地獄谷の荒涼たる様など近 二の池と今夜泊まる予定の二の コンクリートの石段を登りき

策する。花期の遅いクモマグサ り、夕食までの間池の周辺を散 二の池畔には未だ随分残雪があ 物もまだかなり花を残している。 やチシマギキョウなどの高山植 急な下りを降り二の池小屋へ。 になったが幸い小生らは一部屋 くりくつろぐことができた。 あてがわれ風呂まであり、ゆっ 会や白装束の信者さんらと一緒 山頂に居たら寒くなったので、 夜間は風が強かったが北斗七 小屋では四〇人位の団体山岳

晴れそうだ。 とに朝食は部屋まで運んでくれ、 ゆっくり食べることができた。 朝四時に目が覚める。驚いたこ

近くに現われたのにはびっくり。 外は風が強くガスが絶えず流れ ミダルな鋭峰。 嶺。すぐ近くには継母岳のピラ 聖などが連なる南アルプスの連 南駒の向こうには塩見、赤石、 い。白山が以外に近い。空木、 頂は狭いながら展望がすばらし 山頂に着く頃はガスも晴れ、山 中ライチョウの親子がすぐ足元 の河原を通り、魔利支天へ。途 ているが、雨の心配は無さそう。 ガスの中ペンキ印を頼りに賽

星が満天に大きくかかり、トイ たが、北アルプス方面に雲が出 つのも忘れてしばらく眺めてい 八ヶ岳、白山……、時間の経 宝剣、甲斐駒、北岳、間の岳、 った。乗鞍、槍、穂高、木曽駒、 頂へ。ここも展望がすばらしか と良く似たコースをたどり、 クサを見ながら、尾瀬の至仏山 上五ノ池小屋を経て、途中コマ くる人達に会う。ハイマツ帯か 師岳が雲間から頭を出している。 たのを機に、下山にかかった。 てきて槍、穂高が見えなくなっ らダケカンバ、トウヒ、シラベ そして時折このコースを登って で遠方に目をやれば笠ケ岳や薬 を越える下りである。下り途中 継子岳へは小ピークの飛騨頂 濁河温泉へ標高差千メートル

かかっている。

ができた。 色に輝くヒカリゴケを見ること 営の温泉で汗を流す。バスまで ケの案内板があり、岩影に蛍光 歩道を散策していたらヒカリゴ 時間があったので、近くの自然 ようやく濁河温泉へ着き、

も望まれた。昼には名物のおい 学に始まり、高山城址、高山陣 しいそばを食べ再び夜行バスの 城山公園の一角からは穂高連峰 屋など古い街並みを散策した。 に泊まる。翌日は高山の朝市見 この日は高山まで行き、市内

山名をたずねて

氏からの誘いがあった。 がいかない。一度登らないかん たからである。「オオクズレサ その呼び方を間違って覚えてい と言っても、登った事はなく、 団体が翌日の朝食後出発とのこ と山菜料理が美味。三十人程の 川ダム上流の渓流荘泊。エノハ に祝子 (これまた難しい呼名) と思っていたところ、先輩のS ン」となぜ読まないのか?合点 紅葉が始まる十月下旬。 大崩山には苦い思いがあった。 その前には出発しなければ。

> な剣先スルメをつまみに、一杯 S氏からいただいた団扇のよう

> > 河原に出てのんびりと食事

るかった。丸っこい巨岩が点在 を登って尾根に出る頃は既に明 樹林を黙々と進み、荒れた急崖 もない道も暗闇では勝手が違う。 を渡って小積谷へ。昼なら何と けていざ出発。山荘を過ぎ、川 車を飛ばし、ヘッドライトを点 抜かりなく下見した登山口まで し、独特の景観である。 翌朝、四時半に山荘発。前

なった。

ラな存在感を醸し出している。 系のイメージと異質の、ハイカ 乗った胡麻のように見える。ツ を歩く登山客が、河原の小石に 事な岩峰群を満喫。丸い岩の上なかったが、紅葉の始まり、見 足下もなかなか高度感あり。大 ルッと滑りそうだ。祖母・傾山 やや曇り気味のため展望は望め 流点を過ぎると、山頂に到着。 坊主尾根、モチダ谷からの合

ち上がったビールで乾杯!思い 名の由来か、納得々々。 大崩山頂は雑木が茂り、展望な から教わり、一応頂上に向かう。 そこが頂上ではないことをS氏 残すことなく下ろうとした時、 少し寒くなったが、忘れず持

刺されるアクシデントはあった 急坂を一気に下山。S氏が蜂に 高度感抜群。写真を数枚撮り、 下山の坊主尾根途中の岩上は

して心の中に封印されることと ミレニアムのささやかな記憶と 願の山行は、あの囁きとともに、 明。大崩山、一,六四三m。念 ムが入っていなかったことが判 をとり、帰宅の途についた。 後日、S氏のカメラにフィル



私の無名山ガイドブックの ケ城山(かれる)

勝

山頂にはそれぞれ三角点が置か 地点の佩楯山から石峠山へと続 た登路はない。 楯ケ城山はどこが山頂なのかは たピークになっているのに対し、 れていて、いずれもはっきりし 椿山へと続いている。これらの の長い稜線となり、小さなアッ き、一旦下がったあと楯ケ城山 国峠からの郡境の稜線は、最高 っきりしない。もちろん定まっ プダウンを繰り返して、冠岳、 地図を頼りに登るとしても本 大野郡と南海部郡を分ける三

(オオ、コェー)」。これが山崩の山頃で「おお、怖!

同じく本匠村の井ノ上から林道 つめ、稜線に出て山頂に至るか 道を進み、林道の終点から谷を 匠村の因尾から小又川沿いに林

> 見える。ここから先の林道は荒 があり再び轟滝入り口の標識が と良い。 近のスペースを探して駐車する 尾川を渡ると、少し先に三叉路 めて登ることにする。井ノ上の をつめて登るかである。 れているので、乗用車はこの付 滝入り口の案内標識に沿って因 公民館前のバス停の所にある轟 ここでは井ノ上から林道をつ

足慣らしにちょうど良い。 の中の林道は緩やかな登りで、 の清流を聞きながら進む。木立 とになるが、右下には絶えず谷 滝の入り口から林道を歩くこ

渡ることにな。 近くなると、ほどなくその沢を てその沢が小滝をなして左下に に聞こえるようになるが、やが グ登っていくと沢がはるか左下 ある。造林地の中の道をジグザ く、ちょっとした良い登山道で ここを登山口としよう。道は良 上に向かって歩道がついている。 線へ延びている。林道はその先 に大きく曲がって、向かいの稜 五分足らずで林道は谷を渡り右 二〇〇mほどで行止りとなる。 林道がカーブする沢の脇に、 滝の入り口から約二キロ、二

い原野のようである。原野の中 杉の幼木が植わっており、明る 戻しておく。ネットの向う側は 縄を解いて中に入り、必ず元に ネットが行く手を遮る。丁寧に に歩道が続いているが、 沢を渡り少し行くと鹿避けの 下草が

とだ。

くいので丁寧に踏みあとをたど 茂っている場合は道が分かりに

で水筒は満タンにしていこう。 る。ここが最後の水場となるの 林道から入って二〇分程度であ て小さな沢に出会う。ここまで うに気をつけて通過するとやが ネットにであう。ここも同じよ 中に入るとすぐに再び鹿避けの る道をたどる。三、四分で林の に分かれる道があるので左に登 り、草の中を真っ直行く道と左 沢を渡ると道はほとんど判然 道はやがて小さな三叉路にな

いので、とにかく上を目指すこ ブッシュではなくわりと歩き易 ジグザグを切って登っても良い。 らに直登してもよいし、適当に しがみつくようにしてがむしゃ 然林となる。急斜面を木や岩に をグングン直登するとやがて天 なり、一段と急になる。急斜面 な杉の下は見通しの良い斜面と をつけておいた方が良い。 広く円い尾根状になると大き

えはじめ、ようやく郡境の稜線 やがて樹間にスカイラインが見 に飛び出す。林道から約六〇分 我慢して高度を稼いでいくと

中に照葉樹の混じった中の尾根 み後らしいものがある。杉林の 登りになっており、かすかな踏 くと左に向かって細い尾根状の としなくなるが、一〇mほど行

ここから先は帰りを考えて目印

西に向かって進む。 跡が延びている。この踏み跡をそこには東から西に立派な踏みほどであろうか。稜線に出ると

天然林の中の稜線を西へ西へと進むとやがて左手南側の樹間と進むとやがて左手南側の樹間を歩いたりしながらひたすら西を歩いたりしながらひたすら西を歩いたりしながらひたすら西を歩いたり着かない。三〇分ほど進れているのピークから、稜線の端に立つと造林地のはるかなかだところのピークから、稜線の端に立つと造林地のはるかでした。大きなピークが山頂である。

を線に沿って下り、南が植林の跡の茅野、北は照葉樹の二次 林の稜線を、茅野を行ったり、 林の稜線を、茅野を行ったり、 はうにずんずん進む。途中の茅 野のピークからは尺間山、椿山、 野のピークからは尺間山、椿山、 では、米花山等を一望できると できると

が立っている。
小さなピークを二つほど越し、ゆっくりとした斜面を登っていめっくりとした斜面を登っていると急に目然林の中を登りつめると急に目然林の中を登りつめると急に目然が三枚も立てられ、少し大きめの二等三角点の石柱と標柱

稜線が折れたピークから二〇

を引き返す。
東側が素晴らしい。下山は往路の少し手前の造林地に戻ると南の少し手前の造林地に戻ると南はいが、山頂は照葉樹に囲

→ 参考 コースタイム井ノ上
→ 六○分→登山道入口→二五分→ 間ケ城山→四○分→郡境稜線→四○分→郡境稜線→四○分→ 正五分→ 四○分→登山道入口→二五分→登山道入口→二五分→登山道入口→二五分→登山道入口

◇二万五千分の一地図 風楯山



十一月月例山行のお知らせ

・目的…夷守岳(1344m)ほか

ラフ、テント持参のこと。等で用意してもよし)とシュ

忘年会 十二月月例山行の ご案内

> ・会費…一〇,〇〇円(懇親 会、宿泊、朝食及び翌 会、宿泊、朝食及び翌 村本にて十一月末日までに返 がキにて十一月末日までに返 事をお願いします。 事をお願いします。

・目的…黒岳・野稲山 十二月月例山行

午前五時 (日) (重廣さんの分水嶺)

・十二月二二日~二三日…

・詳しい予定が決まり次第お知・一月二六日~二七日…本谷山・一月二六日~二七日…本谷山

でいます。 私の四十周年記念

このごろでは「ふるさと富

士」や「分水嶺」といったテ

マで来県の機会も多く、

るようで、中には熱狂的な追っかりファンも定着しつつあ

持ちしています。
持ちしています。
持ちしています。
持ちしています。
一つです。
告さんの報告原稿をおった山のうちの一つを、支部結った山のうちの一つを、支部結った山のうちの一つを、支部結った山の方との世界である。

場所…別府市「喜可久旅館

TEL 0977-22-165

受付 午後四時から

午後五時三〇分から

日時…十二月八日(土)

段即

0 0 廣恒夫(日本山岳会員)さん 県し、馴染みになってきた重 念ブロック集会以来時折り来 移して賞味。何とも言えない ように蓋を開けてるとぷーん こと久し二月。待ちきれない のたつのを待ちました。待つ 沢山頂きました。酒好きの私 芳醇な味。甘露、甘露…。 と甘い芳しい香り。グラスに はさっそく果実酒に入れて時 ってある方にサルナシの実を 九五年のJAC九〇周年記 九月の始め、山の土産とい

ご一緒に登りませんかとお誘○ その重廣さん、十二月にはッカケも?

いです。前夜は我が支部の忘

年会にも参加の予定です。○ 会報は皆さんの書いた記事によって発行するものです。 を載せたいと考えています。 を載せたいと考えています。 を載せたいと考えています。としお寄せください。楽しみどしお寄せください。

к · I

日本山岳会東九州支部報 第15号

2001年(平成13年) 10月25日(木)

発行者 梅 木 秀 徳 編集者 飯 田 勝 之 発行所 〒870-0021 大分市府内町1-3-16 サニースポーツ内 西 孝子方 TEL・FAX 097-532-0926

TEL・FAX 質字 佐藤正ハ

- 9